

財団法人かめのり財団
日本語・中国語教育助成事業

2006年度(平成18年度)～2010年度(平成22年度)まで、(財)国際文化フォーラム(TJF)の実施する特に日本における中国語教育および中国・韓国における日本語教育に関連する事業に助成しました。国際文化フォーラムは若い人たちがことばや文化の違いを乗り越えて、自他の相互理解を深め、共に生きていく力を身につけることを願い、若い世代への外国語教育と国際理解(文化教育)の関連事業を展開しています。

2006年度～2010年度の助成事業

| 2010年度 助成事業 |
|--|
| 第二外国語としての日本語教育推進プロジェクト |
| <p>2006年度から2009年度までの4年間に、中国大連市教育局から要請を受け、大連市での第二外国語としての日本語教育の導入をプロトタイプと位置付け、中国初の中学校向け第二外国語教育用の日本語教材『好朋友』(全5冊)の編集制作、中高校日本語教師研修、日本との学校交流の促進を行った。昨年度は『好朋友』全5冊も完成し、第二外国語を大連市に根付かせるための基盤を整えることができた。</p> <p>本年度からは、これまでの大連市での成果を踏まえ、東北三省(遼寧省、吉林省、黒龍江省)の日本語教育実施校を中心に同地域における第二外国語の導入を働きかけていく。</p> <p>東北三省における第二外国語としての日本語教育の推進</p> <p>東北三省の教育行政者及び日本語教研員に協力を依頼し、各地の日本語教育の実施状況や第二外国語導入へのニーズを把握すると同時に、第二外国語の意義及び『好朋友』の教育目標、内容構成、教育方法等、教科書の特色や期待される効果を伝える。省内で拠点校を選定してもらい、第二外国語を開設する学校には導入当初に使用する『好朋友』の第1冊を寄贈する。</p> <p>中学校の日本語教師を対象としたワークショップの開催</p> <p>東北三省の中でも大連市を擁し、かつ第二外国語導入の可能性のある拠点校が把握できている遼寧省については、8月に瀋陽市で、省内の拠点校の教師(黒龍江省の拠点校の教師を含む)を対象にしたワークショップを遼寧省基礎教育研究研修センターと共催する。</p> <p>東北三省のフォローアップ</p> <p>日本語教育専門家とTJF職員が遼寧省・吉林省・黒龍江省を訪問し、すでに第二外国語の日本語教育が開設された拠点校を巡回し、第二外国語をフォローするとともに、必要に応じて日本語教師を対象にしたワークショップを実施する。</p> <p>北京にて第二外国語広報活動の実施</p> <p>東北三省でのフォローアップ後、北京を訪問し、JICA 隊員総会の会場で現在中等教育機関に派遣されている日本語教師隊員を対象に、第二外国語ならびに第二外国語日本語教材『好朋友』の広報活動を実施する。</p> <p>東北三省・北京以外での第二外国語広報活動の実施</p> <p>東北三省以外にも、日本語教育が盛んな地域(上海など)で、日本語教育関係者、教育行政者や第二外国語の導入に関心を持つ日本語教育実施校の校長などから、第二外国語に関する問い合わせや要望を受けた際には、その都度フォローする。</p> |

| 2010 年度 助成事業 |
|---|
| 2010 年高等学校韓国語・中国語教師研修 |
| <p>2007 年 3 月に発行した「学習のめやす」の全国的普及をめざし、2008 年度は、「学習のめやす」の実際の授業での活用方法を主眼とした教師研修を、国内 4 地域の大学等の機関と共催で実施した。2009 年度は「学習のめやす」作成にあたり、その基礎となる外国語教育についての哲学、理念、ミッション、目標設定について助言していただいたカリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授を主任講師に迎え講師研修を実施し、コミュニケーション能力の育成をめざした外国語教育の考え方の基本を多くの高校の中国語・韓国語教師と共有するとともに、実際の授業案づくりなどの実習を通して、「学習のめやす」の活用法を理解してもらうことをめざす。また、より使いやすい「学習のめやす」をめざし、大学と高等学校の中国語と韓国語教育関係者に検証・改訂作業を依頼し、それを検討する会合を複数回開催する。(2008.8 他実施)</p> |

| 2009 年度 助成事業 |
|---|
| 大連市中学校日本語教科書共同編集制作 |
| <p>TJF は 2007 年度から大連市教育局との共同編集により、中学校向け第二外国語教育用の日本語教科書全 5 冊の編集、出版にあっている。2009 年度は第 4 - 5 冊の出版に取り組む。この教科書は、生徒の関心の高い漫画の物語を主軸に展開させ、カラー写真やイラストも豊富に取り入れるなど楽しく学習できる工夫をしたものとなっている。2007 年 8 月に第 1 冊、2008 年 3 月に第 2 冊、2008 年 8 月に第 3 冊が発行され、本年度は第 4 冊、第 5 冊を出版し、全 5 冊が揃うこととなる。第 1 冊発行後、第二外国語に日本語を導入する学校が増えており、また全 5 冊の完成を望む声が現場から届いており、大連市教育局が掲げる「中学校を起点として、全市のすべての中高校において日本語科目を開設する」という目標の達成に貢献できると考える。</p> |
| 「高等学校の中国語と韓国朝鮮語：学習のめやす」プロジェクト |
| <p>2007 年 3 月に発行した「学習のめやす」の全国的普及をめざし、2008 年度は、「学習のめやす」の実際の授業での活用方法を主眼とした教師研修を、国内 4 地域の大学等の機関と共催で実施した。2009 年度は「学習のめやす」作成にあたり、その基礎となる外国語教育についての哲学、理念、ミッション、目標設定について助言していただいたカリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授を主任講師に迎え講師研修を実施し、コミュニケーション能力の育成をめざした外国語教育の考え方の基本を多くの高校の中国語・韓国語教師と共有するとともに、実際の授業案づくりなどの実習を通して、「学習のめやす」の活用法を理解してもらうことをめざす。また、より使いやすい「学習のめやす」をめざし、大学と高等学校の中国語と韓国語教育関係者に検証・改訂作業を依頼し、それを検討する会合を複数回開催する。(2008.8 他実施)</p> |

2008 年度 助成事業

第 1 回日本語橋:中国の高校生のサマーキャンプ

TJF が実施する中国語を学ぶ日本人高校生のための中国短期研修「第 2 回 漢語橋:日本の高校生サマーキャンプ」の期間中に、中国東北三省の高校で日本語を学ぶ生徒の代表を集め、日中の高校生が 5 日間寝食をともにし、さまざまな協働活動を行うことによって、双方の学習言語のコミュニケーション能力の向上と、相互理解の深まりをめざすサマーキャンプを実施する。これは 2007 年度実施された「第 1 回漢語橋:日本の高校生のサマーキャンプ」の際に、大連市の高校生との直接交流を通じて、日本・中国双方の高校生にとり大変印象深いものとなり、個々でのメールや手紙による交流が続けられていることから、直接交流による言語学習や文化理解、相互理解の有益性をふまえ、本年度はこのサマーキャンプの実施により、交流相手を十分に知り、協働活動や日中学生交流会成果発表をとりいれるなど、互いの理解が促進されるようなプログラムを実施する。(2008.7-8 月実施)

大連市中学校日本語教科書共同編集制作

TJF は 2007 年度から大連市教育局との共同編集により、中学校向け第二外国語教育用の日本語教科書全 5 冊の編集、出版にあたっている。2007 年度に引き続き、2008 年度は第 3 - 4 冊の出版に取り組む。この教科書は、生徒の関心の高い漫画の物語を主軸に展開させ、カラー写真やイラストも豊富に取り入れるなど楽しく学習できる工夫をしたものとなっている。2007 年度は、2007 年 8 月に第 1 冊、2008 年 3 月に第 2 冊が発行され、第 1 冊発行後、第二外国語に日本語を導入する学校が増えていることから、今後も、日本語教育を実施していない学校にも、第二外国語として日本語が開講していくことが大いに期待される。

「高等学校における中国語教育:学習のめやす(試行版)」の活用をめざした教師研修

「学習のめやす」の全国的普及をめざし、2007 年度には中国語教師を対象として「学習のめやす」についてのワークショップを実施した。2008 年度は、「学習のめやす」の実際の授業での活用方法を主眼とした教師研修を、国内 4 地域の大学等の機関と共催で実施する。より多くの現場の教師と「学習のめやす」が提案するコミュニケーション能力の育成をめざした中国語教育の考え方を共有し、実際の授業案作りなどの実習を通して、「学習のめやす」の活用方法を理解してもらうことをめざす。(2008.8 および 12 月実施)

2007 年度 助成事業

「高等学校における中国語教育:学習のめやす(試行版)」の普及と改訂に向けての研究

TJF が 2006 年度に進めてきた文部科学省委嘱事業「高等学校における中国語と韓国朝鮮語の目標・内容・方法に関する研究」の成果が『高等学校中国語と韓国朝鮮語:学習のめやす』としてまとめられ、2007 年 3 月に出版、中国語・韓国朝鮮語の講座を開設している学校に送付した。2007 年度は、「学習のめやす」で提案している中国語教育のあり方、授業の組み立て方などを説明するためのワークショップを開催し、さらに「学習のめやす」作成メンバーによる研究会合を開催することで内容を高め、教育現場で長期的な指針となる普及版の作成を進めていく。

大連市中学校日本語教師研修会

2006 年に中国遼寧省・大連市教育局が第 2 外国語として日本語を中学校に導入するという奨励策をうちだし、同年 9 月には、約 5,000 人の中学生が第 1・2 外国語として日本語の学習を始めた。これにより日本語教師の育成が急務となり、昨年度に引き続き 2007 年度は特に注目される中学校における第 2 外国語教育としての日本語教育の定着を目的に、大連市において日本語教師研修会を開催する。(2007 年 8 月実施)

大連中学校日本語教科書共同編集出版

大連市の中学校で第 1・2 外国語として日本語の導入が進む中、教師育成とともに課題となっているのが、教材の整備である。第 1 外国語教育用の教科書として『日語』があるが、選択科目である第 2 外国語用の教科書がない状態であることから、TJF では大連市と協力して、生徒の関心の高い漫画の物語を主軸に展開させ、カラー写真やイラストも豊富に取り入れるなど楽しく学習できる工夫をした日本語教科書の研究開発する。

(2007 年度より 2 年度 / 2 期に分け計 5 冊の教科書を出版予定

-2007.8 日本語教科書『好朋友 1』出版)



2006年度 助成事業

日韓高校中国語教師間のネットワークづくり

日本および韓国の高等学校における中国語教育は、急速に発展しており、中国語は選択あるいは必修選択の第二外国語のひとつとして位置づけられている。そこで日本と韓国にある高校中国語教師ネットワーク組織間のネットワークを構築し、日韓双方の高校中国語教育の現状を高いに把握することにより、次年度以降の具体的なプログラム実施に結びつけることを目的とする事業。(2006年6月および2007年3月実施)

日中の高校の中国語・日本語教師間の対話

神奈川県は高校中国語教育の拠点地域のひとつであり、また神奈川県の姉妹省・中国遼寧省大連市では2005年11月に大連市教育学院内に「日本語教育学習研究センター」を設立するとともに教育行政が中心となり日本語教育を積極的に推進している。

大連市の日本語教育関係者および学習者を招聘し、日本に対する理解を深めることのほか、神奈川県内中国語教育実施校、教育関係者、学習者との交流をすることで、料地域の語学教育を核にした学校間の交流を促進することを目的とした事業。(2006年10月実施)

大連市中学校日本語教師研修会

大連市では2006年9月より中学校に第二外国語に日本語を導入することになった。中国の次世代が日本語を学ぶことは、日中関係を考える上で大変意義深く、今回大連市教育局からの要請を受け、第二外国語としての日本語を導入する中学校の日本語教師を対象とした教師研修会を開催。日本語教育の質的向上を図ることを目的とする事業。(2006年8月実施)